平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業　別紙様式２

熊野町立熊野第一小学校の取組

研究テーマ
通常の学級における特別支援教育の視点を生かした授業改善
～社会科の班学習を通して～

授業実践①（プラン）

◆第５学年　社会科　単元名「自動車工業のさかんな地域」

◆本時の目標

社会や人々のニーズ，環境等の観点から，これからの自動車づくりに求められていることを班で話し合い，表現することができる。

◆児童の状況と，それをふまえた指導・支援のポイント

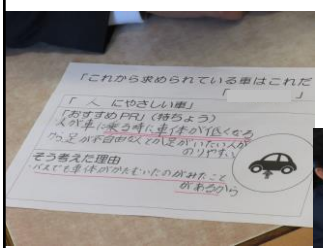
学級全体の状況
男女の仲が良く，協力して活動することができる。
お互いの個性を認め合っている。

特別な支援が必要な児童の状況
A→集中できる時とできない時の差が大きい。自分の思いと違うと受け入れないことが多い。
B→自分の考えがもてないと消極的。活動では自分の役割しかしない。

指導・支援のポイント
全体→「話し合いの仕方」を書いたものを班に配付し役割の確認をさせる。
前時に「これから求められている自動車」についてワークシートに記入させておく。
A→話し合いに上手く参加できている時には，しっかりほめる。
B→前時に作ったワークシートを持たせておく。

授業実践②実践の具体

自分の意見や考えをもたせ授業に参加させる



授業実践②実践の具体

話し合いの役割や
マナーを明確にする

班で話し合いをしよう

【話し合う時の役割】
○司会者（話し合いがうまく進むように，指名をしたり，進行をしたりする。）
○記録係（話し合っていることを用紙に記録する。色や文字の大きさにも気をつける。）
○発表係（班で話し合ったことを全員の前で発表する。）
○お世話係（用紙やペンなどの道具を取りに行ったり，返したりする。）
☆もちろん，一人一人意見や考えを話します。

【話し合う時のマナー】
○自分の意見や考えを班の人に聴こえる声で話す。
○聴いている人が分かりやすいように，まとめて話す。
○相手の顔を見て（資料を見て）反応しながら最後まで聴く。
○自分の意見や考えを言い終わっても，全員が言うまでよく聴く。

これができれば，よい雰囲気で話し合うことができるよ。

授業実践②実践の具体

班ごとに１台の自動車を提案させる

授業実践③成果・課題

○成果
・本時の目標は達成した。
・支援１「前時に，本時で使うワークシートの記入」
→自信をもって授業に参加することができた。
・支援２「話し合いの仕方の確認」は効果的。
→自分の役割を全員が意識することができた。
・本時でパフォーマンス課題の設定をしたことで，協働的な学習となった。

●課題
・振り返りが，班での役割や話し合いの様子に偏り，教科としての振り返りが弱かった。

授業実践④今後の改善点

・ **振り返りの工夫**
教科，本時のめあてに即した振返り活動をさせる。

・ **支援方法の研究**
今後も「あったらみんながうれしい支援」を考えたり，作成したりしていく。

普及・啓発①拠点教諭の取組

職員研修の積極的な実施

児童理解研修

・年度当初（引継ぎも含めて）
・行事の前（運動会，学習発表会等）
・気になった時（児童の様子から）

発達障害に関する研修

・本研修で学んだことの還元

普及・啓発②拠点教諭の取組

町内への普及･啓発　1

熊野町特別支援教育推進協議会

・１０月２８日（水）
・町内全小中学校　対象

【内容】
・授業提案
・様々な支援の方法の実践交流

普及・啓発③拠点校の取組

町内への普及･啓発　2

熊野町生徒指導推進協議会

・年間６回
・町内小４校、中２校生徒指導主事、町教委
・各学校の授業を見合い、生徒指導上の諸問題等について協議
・発達障害に関わる指導上の悩み等に対し、本研修での学びを普及している。

今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	・Ａ児，Ｂ児はもちろん，他の児童も支援となる工夫。 ・温かい雰囲気のある環境。	・基礎的基本的な学力の向上。 ・個に応じた支援のさらなる工夫が必要。
普及・啓発	・町内特別支援教育推進協議会，校内授業研究を兼ねて提案，協議。 ・保護者との連携。	・保護者に取組を理解してもらう機会が必要。 ・地域への発信が不十分。

次年度への展望

	取組の重点
授業実践	・１時間１時間の授業を大切にする。 ・児童理解をし，少しでも早く個に応じた支援ができるように，実態把握を積極的に行う。
普及・啓発	・参観日の授業において、取組が分かる工夫を行う。 ・HPや学校だより等による発信。 ・小中連携の一層の推進。